といってよい．幾つか気になる点がある．51ページのジャイアントケルプは基部近くから葉を描いて欲しく，しばしば述べられる潮干帯の語は潮間帯がふさわしい．これらは，しかし本書の値打ちを損なうものではない．藻類や環境問題に関心のある方々だけでなく，広く一般の人々にも時宜を得たよい読み物として推薦したい．（千原光雄）

□松香宏隆：**トリバネチョウ生態図鑑** 367 pp. 2001. 松香出版. ￥34,000.

トリバネアゲハ属，アカエリトリバネアゲハ属，キシタアゲハ属を含むトリバネチョウ類の生態図鑑であり，豪華な写真集でもある．同時に，トリバネチョウ類の食草となるウマノスズクサ科植物について生態写真50種を含め67ページにわたって記述している．植物の面から見た本書の特色はニューギニアおよび東オーストラリア産の種類が多数とりあげられていることである．Parsonsが1996年にBotanical Journal of the Linnean Societyに発表した論文により，この地域から多数のウマノスズクサ属および*Pararistolochia*属の新種が記載されたが，それらの生態写真や生態に関する生々しい記述をさっそく目にすることができるとは夢のようである．熱帯アジアから太平洋地域にかけてのウマノスズクサ科の分類はまだ初歩的な段階にあり，今後多くの標本資料を収集し，生態観察を積み重ねていくことが必要と考えられるが，本書はそのような研究資料として貴重なものである．なお，定価は記されていないが，上記の価格で昆虫関係の文献を扱う書店などから入手することができる．（邑田 仁）